

私は浜のおばちゃんレポーター
～大好きなパソコンをいかして～

邑久町漁業協同組合女性部
部長 山本 美津子

1. 地域の概要

瀬戸内市邑久町は人口19,502人、(図1) 稲や野菜、ピオーネ、カキなどに代表される農業と漁業の町であり、また大正ロマンの作家、竹久夢二の生家や人形師の竹田喜之助の生誕地として知られている。(図2) 平成16年11月1日には邑久郡3町の長船町、牛窓町と合併して「瀬戸内市」が誕生した。

2. 漁業の概要

私の住んでいる瀬戸内市邑久町虫明はカキ養殖で知られたところである。大正15年、小学校の猪又先生が貧しさのため小学校に来られない子供たちの姿をみて、「漁村を豊かにしなければ」と、「獲る漁業」から「養殖漁業」への転換を推進した。その結果、品質の良さと収量は県下一となり、「曙カキ」と名前を轟かせた。虫明湾のカキ筏は風光明媚で多くの人を魅了し、写真や絵に姿を残している。(図3)

現在、邑久町漁協の組合員は103名、生産額は鮮魚類3,863万円、貝類9億4,698万円と岡山県最大のカキ産地である。(図4) 魚はくらげの異常発生により漁獲量が減少し、加えて韓国産の生食用のカキの輸入や食の多様化などにより、価格の低迷が続いている。この数年で漁家の経営は圧迫されてきて、青壮年部によるヒオウギや岩カキなどカキのシーズンオフに出来る生産にもトライしている。

3. 研究グループの組織と運営

邑久町漁協女性部は昭和43年に結成された組織である。(図5) 今まで100名以上もいた部員は、現在78名まで減少した。

「健康についてもっと考えよう」「漁協女性部として特徴ある活動を」とみんなの気運が盛り上がり女性部を結成。昭和49年には漁業者対象の集団健康診断を先駆けて行い健康作りを实践、平成10年にはカキをもっと食べてほしいと料理本「かき料理いろいろ」を出版した。「牡蠣祭り」は組合の一大イベントで本年1月30日には、私たちの作った加工品も大盛況のうちに完売した。また年1回の研修旅行は、仕事や家族のことも忘れて部員同士の親睦を図る大切な行事となっている。

4. 研究・実践活動課題選定の動機

我が家はカキ養殖を中心に私たち夫婦と両親で作業を行っている。種付けやカキ剥き、殻付きカキの選別、出荷、片づけにと秋から春先まで半年以上作業が続く。夏場になると、ツボ網漁(小型定置網)をする漁家もあるが、クラゲが大量に発生し、魚が入らないのであまり収入にはならない。私たち夫婦は夏だけパートに従事していて、両親がハゼツボや

イダコツボを少ししている。今年からブルーラインが無料化になり、その関係でパートをしていた夫は仕事をなくし、今年には年老いた母の代わりに父と漁に出た。このような漁家が数年前から増えてきて、漁業だけでは食べていけない、つらい状況になっている。

嫁いで29年。地域でいろいろな役をこなしてきたが、今年漁協女性部の部長という大役を引き受けざるを得なくなった。でも部長をいったん引き受けたからには「やるしかない」と覚悟を決めた。そして漁連へ、普及所へ、地域活動へと代表者として出席して、初めての経験でずいぶん勉強になった。今まで私は何もしていなかったこと、何も知ろうとしなかった自分を反省した。そしてこの与えられたチャンスを十分に生かして、人との出会いを大切にしようと思った。

このような中で、総会を機に部員の意見を聞くことが増えてきた。カキの単価が安く蓄えが目減りしていること、さらに夏場の収入が少ないため、漁業以外に働きに行く人が増えていること、そのため生活に余裕がなくなり女性部の活動に参加出来なくなっていることを実感した。パートに出られる人はいいが、たった5ヶ月余りの仕事はこの不況の中難しいことである。それなら女性部として何が出来るか？カキを高値で出荷出来るか？加工品として販売できるか？安定した漁家経営、ゆとりある生活の実現が最大の課題だと思っている。(図6)

5. 研究・実践活動の状況及び成果

(1) カキ料理をPR

私たちは料理が大好きで美味しくカキを食べてもらおうと、仕事や家事の合間を見つけていろいろな料理を作り、納得のいくまで味づくりをして、みんなに味をきいてもらい、その意見を参考にして味をかえてきた。また食材の組み合わせや色どり、盛りつけなども考え、和風、洋風、中華にと研究している。料理の完成写真をデジカメで撮って、誰でも料理できるようレシピも作った。(図7) また、女性部で作った料理も載せたりして、邑久のかき料理をPRしている。さらに今年はカキの冷凍にも挑戦している。夏場にカキの加工が出来るかどうか自分で確かめたくて、試作用にカキを100kgストックした。

(2) 加工場が出来上がるまで

私たち邑久町漁協ではカキのPRと消費拡大を図るため、年1回「牡蠣祭り」を開催しているが、沢山の人で溢れかえるほどの大盛況で、私たち女性部の作った加工品“カキフライ・カキなます・カキおこわ・カキの佃煮・カキ飯”も飛ぶように売れている。(図8) しかし、イベントのみの販売で、常時加工品を販売することができない。消費者からの要望があっても私たちには加工施設がなく、あきらめていた。

そこで加工場を何とかできないか、保健所の許可がもらえて加工できる場所がほしいと行動を開始。組合に相談をした。

組合所有の「曙会館」という建物があり、カキや漁業の歴史、漁具などの展示室、調理場が整備されているが、これを改造して営業許可が取れる施設にできないかと組合長に私たち女性部の思いが通じて、組合長が「組合としても協力を惜しまない、カキ産地のイメージアップにつながるのなら」と事業導入を掛け合ってくれた。(図9)

一方、女性部の意見をとりまとめる必要があるので、役員や歴代の会長にも意見をきいたところ、「夏の収入になるなら」「少しでもカキの収入アップにつながるなら」と、前向

きの意見が得られ、部員一丸となって加工場を整備するという総意が得られた。また県や保健所も快く相談に乗ってくれ、念願だった加工場が整備された。そして今、本格的な加工活動に向け、冷凍カキの保存方法の研究や加工品の味づくりを頑張っている。

(3) 大好きなパソコンは最大の武器

3年前から始めたパソコンは本を読んだり、友達に聞いて勉強した。町や漁連の講習会に参加していろいろなことが出来るようになり、税務申告にも利用している。遊びで始めたホームページは『おかやまのおばちゃん』私自身の部屋、『たべてみんさーい かき』家業のカキ養殖、『きんさーいおく』私の住む町の3つの部屋を作り、紹介している。(図10) ページの書きかえのためにいつもデジカメを持ち歩き、写真を撮るようにしている。先ほどのホームページの中にも写真がたくさん入っているが、見ながら楽しめるよう工夫をしている。そうした結果、インターネットの仲間が増え、メールのやりとりで互いに情報交換出来たりしている。意外な本音が聞けて、大変参考になっている。

一方インターネットを利用した殻付きカキの販売はどうか調べてみた。実際に代金の回収や表示方法、クレームへの対応、次々に考え出すと私の能力では無理だと思い断念した。

6. 波及効果

(1) 女性部の連帯感アップ

このように「何とかせんと！」との思いからはじめたいろいろなチャレンジは、多くの壁にぶつかりながらみんなに支えられ、少しずつ前に進むことが出来た。部長という大役を任されてくじけそうになったとき、周りの人から手を差しのべてくれたり協力してくれたり、解決のヒントをたくさんいただいた。考えるのも行動するのも自分一人ではないと、女性部の良さを実感できた。(図11)

(2) 自立した加工活動への意識づくり

そして女性部活動のイベントや加工活動に参加してもボランティア的に働くのではなく、パート並みの日当が払えるような活動に近づくよう話し合いをした。お金を儲けることに対して起業的な感覚を持って取り組もうと、先進的なグループ活動を視察するなど勉強も行った。

(3) 情報化の推進

また若い会員を中心に自分専用のパソコンを持つ人が少しずつ増えている状況の中で、経費や売り上げの計算、青色申告の勉強も始めている。今までより経営感覚を持って、経営に参画したいとの思いがあるようで、将来的に頼もしいと思う。

さらにデジカメやホームページについても勉強会を開いたりして、漁業者のホームページをネットワーク化できたらとも考えている。

7. 今後の課題や計画と問題点

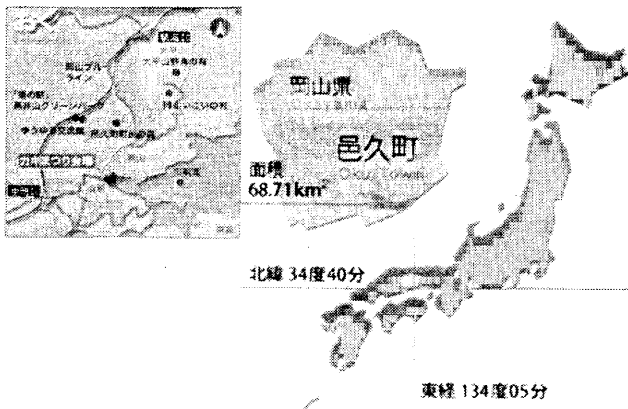
今後の課題としてはまず、加工品の衛生管理や販路等の問題をクリアすることである。

(図12) 販売先としては漁協の直売所や道の駅を考えているが、加工品が広域的に流通されることを前提に、高級感や手作り感を感じられる包材を研究していきたいと考えている。(図13) 一方保存したカキが年間流通できるようになれば季節感や高級感がなくなるといった問題もでてくるが、シーズンオフの働き場所と収入確保が目的なので、地域の

素材をうまく利用した地産地消を盛り上げていきたいと思っている。(図14)

さらに青壮年部や女性部が中心となって子供や地域の人たちに漁家の生産現場を見たり、体験したり、話し合ったりする交流の機会を作っていきたいとも考えている。

最後にこれからもカキ養殖の現場、女性部のことなどホームページを通じて私たちの活動風景や声を紹介していきたいと思う。一人でも多くの方が私たち漁家のことに興味や関心を持って理解していただけるよう頑張りたいと思う。



邑久町の位置

図1



邑久町の見どころ

図2



カキ養殖漁場の風景

図3

邑久町漁協の概要

- 組合員数 1103名
- 生産額:
 - 鮮魚類 3,863万円
 - 貝類 94,698万円

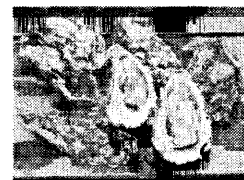


図4

邑久町漁協女性部

- 昭和43年結成
- 部員数78名
- 内訳
 - 部長1名
 - 副部長2名
 - 会計1名
 - 監事2名
 - 地区役員11名

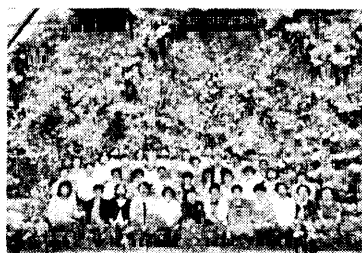
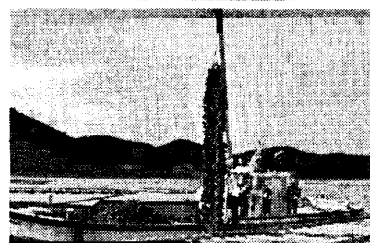
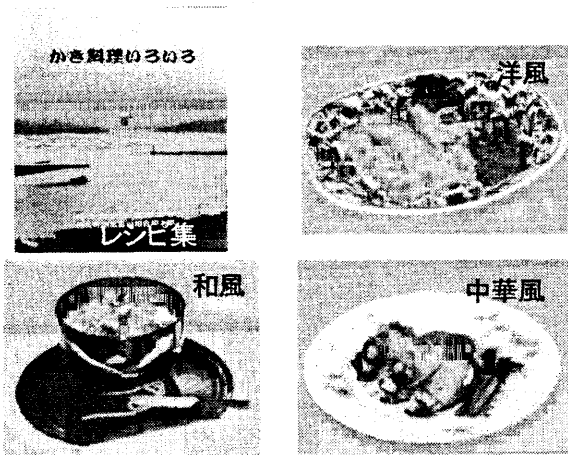


図5



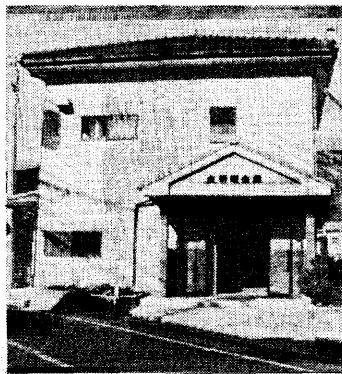
安定した漁家経営を実現のため、女性部として何ができるだろうか？

図6



活動状況① カキ料理をPR

図7



活動状況②-2 加工場を作ろう

図9



波及効果①
女性部の連帯感アップ

波及効果②
自立した加工活動への意識づくり
波及効果③
情報化の推進

起業的なグループ活動を目指したい。

図11



活動状況②-1
組合の一大イベント「かき祭り」

図8

活動状況③ 大好きなパソコンは最大の武器



私自身の部屋



私の住む町



家業のカキ養殖

図10



今後の課題①
加工品の衛生管理と販路の拡大

図12



ゆうゆう交流館

今後の課題② 地産地消の推進

図13



今後の課題③ 消費者との交流

図14



私のホームページ



パソコン&ほっとタイム